

そわにえ Soigner

第4号

「Soigner (ソワニエ)」とは、
「世話をする・手当てする」という意味の
フランス語です。

2005年12月20日発行



発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL: 03-5229-1534・1520/FAX: 03-5229-1524

INDEX/	小笠原より……………⑤
永田先生より……………①	My Pet & Boom! ⑥
情報開示のモデル事業②	委員会からの報告…⑦
ブロック支援委員会…③	投稿規定、俳句、
ステーション紹介…④	編集後記他……………⑧



作者: 6 ページ「My Boom!」参照

さんぽみち

一瞬の深さ

認知症介護研究・研修東京センター

主任研究主幹 永田久美子



木枯らしが吹く季節になり、訪問を終え職場や家路に帰るのも気ぜわしくなっている方も多いと思います。先日、あるケアマネジャーさんから一人暮らしの認知症のお年寄りがふともらした言葉を聞く機会がありました。

「みんなすぐいなくなる。灯が消えたよう……」、と。

ご本人がなんとか自宅で暮らし続けられるように、ケアマネジャー、かかりつけ医、訪問看護師、複数のヘルパー、入浴サービスの職員が時間を縫って懸命な訪問を続けているケースだそうです。「出来る限りのことをみんな頑張ってるんですが、どうしても時間が限られていて……」と苦しそうな表情のケアマネジャーさん。

そばにいてほしい家族も遠く離れ、かつては出入りしていた近所の人や友人の足も遠のいて、在宅ケアの職員が数少ない訪れ人であり、話相手であるお年寄りが増えています。お年寄り、特にものごとがあいまいになっていき不安

と孤独感が強い認知症の方にとって在宅ケアのスタッフは、医療福祉関係者である前に「自分のそばに来てくれた人」「安心や心地よさ、自分が自分であることを実感させてくれる頼みの綱」であるようです。

別の認知症の方がこんな言葉も伝えてくれています。「先のことも、昔のこともよくわからない。でも(今)こうしていると嬉しい」。私たちはとかく先を急ぎがちで、せっかくなのそばにいる「今」が心ここにあらざる、になりがちです。そのことを認知症の人は鋭く見抜き、「すぐ帰る」「来ていない」という印象を刻んでしまっているかもしれません。

一瞬一瞬を深く生きているお年寄り。限られた時間ではありますが、訪れた時には、その人に本当の意味で向き合う一瞬を過ごし、暖かな灯の余韻を残して去りたいものです。